

NPOワンポイントアドバイス!

～中高生を交えた会議のコツ～

地域ぐるみでの活動や、幅広い年代の意見を取り入れた活動が必要になっていくとともに、日頃あまり接点のない層を交えての会議の場も多くなってきます。

そこで今回は特に、中高生を交えての会議を上手に運営するためのコツをお伝えします。

① 大人側の人選を工夫しましょう

大人側はどうしても男性参加者が多くなってしまいます。中高生側に女子生徒が居るようでしたら、大人側でも女性の参加率を多くします。男性は、威圧感をなくするたの工夫(話し方、服装など)を入念に。

ただし、子ども扱いはしないようにしてください。

② 緊張を生まない工夫をしましょう

大人の会議に参加するのですから、中高生に緊張するなどと言っても難しいものです。そこで、できるだけ緊張を生まない工夫が必要です。具体的には、まず見学者を減らすこと。音楽やお菓子を用意し、会議の冒頭にはアイスブレイクをして楽しく話し合えるようにしましょう。

③ ワークショップ形式で進行していきましょう

「代表者が挨拶し、次第に則り事務局が進行」では、思ったことも発言できなくなります。経験豊富なファシリテーター(進行役)に来ていただき、ワークショップ形式で進行すると、どちらの世代も同等に意見を言うことができます。また、ファシリテーション・グラフィック(会議を活性化させる板書)を取り入れることも効果的です。

函館には、優秀なファシリテーターやファシリテーション・グラフィックを行える人がいますので、進行を依頼してみましょう。

④ 事前に「お手紙」を送る

どんなテーマで、どのようなことをするのか。参加者はどんな人か。「こういう工夫をしているので、気軽に楽しむつもりで来てください」というところが伝わる手紙を、事前に送りましょう。

進行役からのメッセージとして、ファシリテーターとなる人を書いてもらうと効果的です。

参考:『NPOマネジメント 58号』IIHOE[人と組織と地球のための国際研究所]発行



センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤 競

まちづくりセンターでは、例年多くの議員視察をお迎えしています。昨年は70件ほど。今年も、7月だけで17件。館内案内と質疑応答で2時間程が基本パターンなのですが、準備も含め、かなりの力を費やします。しかしそうやってお迎えしても、多くの議員は観光気分。上の空だったり、「さっさと終わらせてくれ」というオーラを出しまくっていたり、中には居眠りしちゃう議員もでる始末。特に、“地元での発言力が強そうな議員さん”の態度の酷さが際立ちます。

あまり酷いので、「活発な質疑応答ができるかで、皆様のまちが良いまちかどうか判断いたします!」と、第一声で投げかけることにしているのですが、効果はまだまだです。

もちろん、熱心な視察もあります。明確な課題を持ち、その解決のために学びに来ているという場合は始めから姿勢が違いますし、概して、若い議員や女性議員は鋭い質問を出してくれます。活発な議論ができると、とても気分が良くなります。まちのためにも、視察の質を変えていくためにも、まずは自分がどこかに訪問する際は、多くの「学び」を得られるよう、課題把握をし質問力を高めていきたいと思えます。